

研究課題名	聴覚情報処理障害の精査を機に遺伝性難聴の診断に至った症例の検討
研究の意義・目的	聴覚情報処理障害 (Auditory Processing Disorder: APD) とは、標準純音聴力検査など通常の聴力検査では異常を指摘されないにもかかわらず、特定の状況下での言葉の聞き取り困難を訴え、日常生活に支障をきたしている場合のことを指します。近年マスメディア等により APD の概念が広まった結果、APD と同じような症状を訴えて受診する軽中等度難聴者が増加しています。軽中等度難聴は他覚的な検査での診断が難しく、一定数の割合で遺伝性難聴患者も含まれています。しかし、APD を疑われて受診する軽中等度難聴者のうち、どのような臨床的特徴をもつ症例で遺伝的要因を考慮すべきかについては不明です。そこで本研究では、APD を疑われて受診し、その後遺伝性難聴と診断された症例の臨床的特徴を明らかにすることを目的として検討を行います。
研究を行う期間	機関の長の実施許可日 ~ 2031 年 3 月
研究協力をお願いしたい方 (対象者)	2021 年 4 月~2024 年 1 月までの間、他病院もしくは院内他科で聴覚情報処理障害を疑われて当院耳鼻いんこう科へ紹介された方が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 <ul style="list-style-type: none">・年齢、性別、診断名、病歴、既往歴、自覚症状、家族歴・各種検査結果：聴力検査、遺伝学的検査・質問紙：『聞こえにくさの質問紙』、『きこえの困難さ検出用チェックリスト』
試料・情報を利用する者の範囲および管理について責任を有する者の研究機関の名称	この研究は、公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院医学研究科臨床遺伝学のみで行います。 【研究責任者】 阪本浩一
個人情報の取り扱い	この研究にご参加いただいた場合、あなたから提供された診療情報などのこの研究に関するデータは、すぐには個人を特定できない形式に記号化した番号により管理されます。この研究から得られた結果が、学会や医学雑誌などで公表されることはあります。このような場合にも、あなたのお名前など個人情報に関することは含まない形で公表されます。
本研究の利益相反	本研究の利害関係については、各研究機関で定められた利益相反マネジメントの規定等に従って必要に応じて各研究機関の利益相反マネジメント委員会へ報告を行うことにより、利益相反を管理し研究を遂行します。 本研究は、公的資金 AMED「当事者ニーズに基づいた聴覚情報処置障害診断と支援の手引きの開発」(研究代表者名 阪本浩一) を用いて研究を行います。
研究に協力をしたくない場合	診療情報が当該研究に用いられることについてご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも不利益を受けることはありません。
連絡先	大阪公立大学大学院医学研究科 聴覚言語情報機能病態学寄附講座 担当者氏名：阪本浩一 電話番号：06-6645-2806